

平成27年度実施施策に係る政策評価書

(内閣府27-63(政策18-施策①))

政策名	迎賓施設の適切な運営				
施策名	迎賓施設の適切な運営				
施策の概要	日本の外交に資するため、迎賓施設において海外の賓客に対し接遇を行うとともに、賓客が満足できる安全・快適な施設の提供など、円滑な接遇を行うための迎賓施設の管理・運営を行う。 また、迎賓施設の役割について、多くの国民の理解を深めるため、迎賓館参観及び前庭公開を行うものとする。				
達成すべき目標	迎賓施設において、海外の賓客に対し接遇を行う等、日本の外交に資するものとする。その迎賓施設の役割について国民の理解を深めるため、迎賓館参観及び前庭公開を行うものとする。				
施策の予算額・執行額等	区分	25年度	26年度	27年度	28年度
	当初予算(a)	29	29	31	297
	補正予算(b)	-	-	-	
	繰越し等(c)	-	-	-	
	合計(a+b+c)	29	29	31	
執行額(百万円)	28	35	42		
施策に関する内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)	「迎賓館の運営大綱について」(昭和49年7月9日閣議了解) 「迎賓館の公開予定に関する質問」(昭和49年2月26日衆議院内閣委員会)				

測定指標		基準値	実績値					目標値	達成
		-	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
1. 年間参観者数		-	-	-	-	-	33,000 (上記の他に 試行公開で来館 者数2.8万人※前庭 含めた来 場者数7.6 万人(赤坂 迎賓館))	868,000	達成
	年度ごとの目標値		-	-	33,000	33,000	33,000		
	2. 接遇業務に関して、迎賓施設管理についての苦情等の数	基準	施策の進捗状況(実績)					目標	達成
	25年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度		
	0	-	-	0	0	0	0	達成	
年度ごとの目標		-	-	0	0	0			
3. 接遇業務に関して、賓客国からの要請(施設管理上)に対応できた割合	基準	施策の進捗状況(実績)					目標	達成	
	25年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度		
	100%	-	-	100%	100%	100%	100%	達成	
年度ごとの目標		-	-	100%	100%	100%			
4. 赤坂・京都迎賓館参観者及び前庭公開入場者アンケート実施による肯定的評価(「満足」、「ある程度満足」の合計割合)	基準	施策の進捗状況(実績)					目標	達成	
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度		
	81.9%	85.0%	93.3%	93.5%	95.0%	98.1%	90%以上の維持	達成	
年度ごとの目標		80%以上	80%以上	80%以上	90%以上の維持	90%以上の維持			

目標達成度合いの測定結果	(各行政機関共通区分) 目標達成
	(判断根拠) 27年度に目標を設定した測定指標4項目について、全て目標値を達成することができた。以上を踏まえ、施策は「目標達成」と判断した。

評価結果	施策の分析	<p>迎賓館の接客業務は、世界各国から多くの国王、大統領、首相などをお迎えし、賓客が満足できる安全で快適な施設の提供を行う国の迎賓施設として日本外交の一翼を担っている(27年度接客実績は19件(赤坂10件、京都9件))。</p> <p>一方、非公開施設という特性上、国民が施設の有無や賓客外交の意義を直接理解できる機会が十分でなかったことなどを踏まえ、毎年、迎賓館参観(赤坂・京都)及び前庭公開(赤坂)を実施している(27年度は、赤坂(20,000人)、京都(13,000人)で、それぞれ8月の10日間実施。前庭公開は、11月の3日間実施(17,744人))。</p> <p>これまでの参観状況を見ると、比較的中高年齢層が多い傾向にあることから、若年層の参観拡大を促す取り組み(応募年齢の緩和:高校生以上を26年から中学生以上へ)や要望の多かった事項への対応(1件あたりの申込人数を2人から4人に拡充)などを行ったところであり、多くの世代の国民が迎賓施設の意義・役割を理解することにより、本施策の有効性、効率性は更に高まると考えられる。</p> <p>なお、赤坂迎賓館においては2月5日から18日までの間、28年度の一般公開に向けた試験公開を実施(76,346人)し、本公開に対する事前準備を行ったところ。</p> <p>(測定指標の有効性、効率性)</p> <p>26年度より迎賓館の接客業務が外国賓客が迎賓施設を常に安全かつ快適に滞在できる施設として提供を行うことから、迎賓施設管理運営に関する賓客国の評価や満足度を測定可能な測定指標として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接客業務に関して、迎賓施設管理についての苦情等の数 ・接客業務に関して、賓客国からの要請(施設管理上)に対応できた割合 <p>に移行したところであり、また、28年度から開始される一般公開への参観者数も測定指標に含む予定である。今後とも、当然の使命であるこれらの指標達成に向け、引き続き、適切な管理・運営に努めることとする。</p>
	次期目標等への反映の方向性	<p>【施策】</p> <p>外国賓客が満足できる安全で快適な施設の提供を行うことにより、世界各国から日本に対する高い評価を維持するとともに、国の迎賓施設及び賓客外交の重要性について広く国民の理解を得るため、現在の目標を維持するとともに、今年度の試験公開の結果を踏まえ、28年度から接客等に支障のない範囲内で一般公開を通年で実施する予定としていることから、団体ツアーや外国人観光客を取り込むための方策として、PR広報など観光業界への働きかけつつ、迎賓施設の適切な管理運営を行う。</p> <p>なお、行政事業レビュー公開プロセスにおいて、今後の課題として、「迎賓館は新たに観光資源として位置付けられ、参観は賓客接客という本来業務とは期間を区分けして対応することとなる。本件の参観経費についてはまだ過渡期ではあるが、従来の限定した公開時の対応や契約形態等にとらわれることなく、通年公開によって増えるコストの抑制について、参観料のレベルも含めて検討していく必要がある。」とのご指摘をいただいたところであり、そのご指摘を踏まえ検討を行う。</p> <p>【測定指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 参観業務(指標1) <p>迎賓施設の役割について、多くの国民及び外国人観光客の理解を深めるため参観者数を目標としているもの。来年度からは、通年での一般公開が開始されることによる状況を勘案し、目標値を設定。目標値の達成に向け、適切な公開実施に努めてまいりたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 接客業務(指標2、3) <p>迎賓館の接客業務が外国賓客が迎賓施設を常に安全かつ快適に滞在できる施設として提供を行うことから、迎賓施設管理運営に関する賓客国の評価や満足度を測定可能な測定指標に移行したところであり、27年度は目標数値を達成したところであるが、来年度も当指標を維持し、引き続き、迎賓施設の適切な管理・運営に努めてまいりたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 参観及び前庭公開業務(指標4) <p>26年度より、参観業務に係る達成目標の趣旨は、施設内において安全で快適な事業運営の中で、迎賓施設の役割について国民の理解を深めていただくためであることから、統合移行し、指標4のみとしている。今年度においても、目標数値である90%以上の維持を達成できたところであり、今後とも、当指標を維持し、国民に対し迎賓施設の役割について理解を深めてまいりたい。</p>

学識経験を有する者の知見の活用	-
-----------------	---

政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報	迎賓館参観(赤坂、京都)及び前庭公開の満足度:アンケート結果
---------------------------	--------------------------------

担当部局名	迎賓館、大臣官房 企画調整課国際室	作成責任者名	庶務課長 春山 勝	政策評価実施時期	平成28年8月
-------	----------------------	--------	-----------	----------	---------